



児童養護施設 合掌苑 〒501-4101 岐阜県郡上市美並町上田 674

電話 0575-79-2914

FAX 0575-79-3584

「 感染対策から気づかされること 」

合掌苑 苑長 成澤 武史

私たちが新型コロナウイルス感染症に直面して1年が経ちました。皆様も生活において現在も不自由を強いられていることと思いますが、いかがお過ごしでしょうか。

コロナウイルスのことばかり触れたくはないのですが、いつの間にか、生活の中心になってしまっているように思います。

この新型コロナウイルス感染症がもたらした影響は大きく、毎日を不安のもとで生活しているように感じます。幸い、子ども達は元気に生活しておりますが、学校への登校もマスクの着用が指導され、部活やクラブ、余暇の活動も制限されています。制限されているものは子ども達の生活にとって本当は不可欠な要素なのですが、健康や命の方が大事であるのは誰しもが解ること、仕方がありません。

私たち職員も、マスクを着用しての勤務、リモート会議、等の方法を使わざるを得なくなっています。布1枚、画面の向こう、というその些細な隔たりにさえ、どこか違和感や、人と関わっていく職業なのにと感じる、子ども達と表情を通して伝え合う、分かり合うことの難しさが出ているように感じます。こうした些細な隔たりが、特に幼い子どもへの関わりに影響を与えるのではないかと、表情から相手の気持ちを推測したり直接会ってコミュニケーションを交わすことが、人との関わりの根幹に関わることなのではないかと気付かされました。

子ども達との生活の中で、例年のような活動は制限されてしまったのですが、その中で少しでも子ども達と楽しめることはないかと、感染対策を徹底したうえで、苑庭でBBQをやったり、子ども達と食事作りをしたり、苑内で運動会を開催したり、時には気にかけて下さる方からのプレゼントを頂いたり、子ども達も我慢の中に楽しさを見い出して元気に生活しています。

こんな大変なことが起こっても、時は止まってくれません。入所児にも受験生がおり、勉強から体調管理、頻繁に変わる受験体制に合わせ、当苑の子だけではありませんが、大変苦勞をしています。その中でも、高校進学、大学進学や就職先を決めることが出来、それぞれの道に向かって羽ばたいてほしいと、今後も応援していく所存です。一人一人が感染予防に努め、健康に留意し、一刻も早い新型コロナウイルス感染症の終息を願います。



地域清掃を行いました。感染対策をしたうえで、みんなで通学路のゴミ拾いなどをしました。



合掌苑の職員さん



合掌苑には、様々な職種経歴の職員がいます。このコーナーでは、その職種の紹介を兼ねて、仕事への思いを話してもらおうと思います。第3回目は、事務員の安藤先生です！

「0か100か」

事務員 安藤達也

この度、合掌苑に就職してこれまでに思ったことや感じたことを書いてくださいということでテーマを頂き、僭越ながらこの紙面をお借りして記録を残す機会を頂けたことに感謝いたします。

合掌苑に就職して丁度10年が経ちました。自身としてはまだ10年といった感覚なのですが、周りを見渡すと職員の中でも中堅どころになってきたようで、日々責任が重くなっていくのを感じます。事務職員ということで経理や労務管理といった運営面に関わらせて頂いたり、苑内の整備や清掃といった補助的な業務をしたり、苑外に出て他施設の職員さんと仕事をする機会を頂いたりと多岐に渡る仕事を経験させてもらいました。もちろん普段から子どもたちの生活に近い場所で仕事をさせてもらう中で、日々色々な出来事が起こり、一日として同じ日はないと実感できるほど新鮮な毎日だったと思います。

そんな中でこの10年を振り返ると、自分の考え方が大きく変わったなと思うことがあります。それがタイトルにもさせていただいた「0か100か」です。

まず一つ目に、合掌苑に入社当時の自分は、ほとんどすべての事柄について100点を目指そうとする性格で、100点を目指して努力することが大切で、努力した結果80点だったらそれは素晴らしいことだし、足りない20点は次回努力しようと思うような性格だったと思います。学生に近かったからか元々極端な人間だったのか、テストを受けるような感覚で人生を生きていたのかもしれませんが。それが合掌苑に入社してからというもの、自分の常識は崩れる一方で、たくさん子どもや大人に触れる中で、様々な家庭環境や生活環境や能力のために多くの支援を必要とする人たちがいて、100点を目指すことがすべてではないということが見えてきました。最初から50点を目指す人がいてもいいし、20点を目指して20点を取る人がいても一つ目標をクリアできたと一緒に喜んであげようといった具合に、人の多様性を認め、受け入れられるようになったと思います。合掌苑のような社会福祉施設は社会の受け皿という表現をされることがあります。色々な事情で底をついてしまった人をこれ以上下に行かないように支えるといったような意味合いでしょうか。世の中にはここまで支援を必要とする人たちがいるという事実を知ったときには大変衝撃を受けましたし、だからこそ合掌苑のような施設が必要なのだと理解し実感し続けてきた日々だったと思います。合掌苑に就職していなければ知ることの無いまま一生を過ごしていたかもしれません。ここに身を置けた意味と、自分ができていることを考えながら日々を過ごせたらと思います。

二つ目に、経理に携わって来たことで「0か100か」の考え方が変わったことがあります。例えば、子どもたちに外で夕食を食べさせようとしたときに、極端に0か100かで考えると、0はコンビニのおにぎりでもいいかとなり、100は美味しいお寿司屋さんでおなか一杯食べさせてあげようといったようなことになるとおもいます。



しかし、ここにお金の要素を加えて話し合いをすると、0では安すぎるし、100では高すぎるといった考えが働いて、50を目指そうとする力が働きます。合掌苑では実際に外での夕食は1人800円までと上限を決めて生活しています。この50を目指そうという考え方はご飯に限らず、すべての買い物で発生するのですが、困ったときの判断基準としてはとても優秀です。合掌苑では様々な職員さんが働いているのでそれぞれが色々な思いを持って働いてくださるのですが、その分意見がまとまらなかったりすると、施設長や経理の私がある程度の線を引かないといけないことがあります。先ほどの例はわかりにくかったかもしれませんが、「50を目指す」ことで職員さんに納得して仕事をしてもらいやすく子どもたちの理解も得やすいこと、金銭的にも助かるといった場面が多くあったことで、極端な私の第三の選択肢として「0か100か50か」といった考え方に変わってきたように思います。もちろんすべての場合において50が正解なわけではないので、都度話し合いの必要があって、特別な時や緊急時には100の考え方や0の考え方が必要な時もあります。

間を取る考え方をするようになった自分を客観的にみると年齢を重ねてしまったなあと思うのですが、社会に出て、合掌苑というたくさんの方が関わる特殊な環境で働くうえで必然的に身につく考え方だったのかもしれない。もし職員さんがこれを読んで頂けた際には、職員みんなが同じ考え方になるほうが話し合いにもならず合掌苑が発展しないということもあるかもしれないので、こういった考え方もあるということでも理解してもらって、時々同調してもらえればうれしかないと思います。

これからも働いていく中で10年後にはまた違う考え方をしているかもしれませんが、変化や適応を繰り返しながら合掌苑の養護がより良いものになるように尽力していけたらと思います。



子ども達の今日この頃



避難訓練

寒い中でしたが、みんな真剣に取り組んでいました。



クリスマス

コロナ対策で皆集まったのクリスマス会ができなため、飾りつけでクリスマス感をだしました。



地域清掃

通学路や苑の周りなどを職員と子どもと一緒にゴミ拾いしました。



節分

追い出したい鬼を自分で描いて豆まきです。今年も健康でありますように。

子ども達のこんな姿が

見えました☆

コロナの影響で学校にも行けず施設内にいる時間の多かった今年です。子ども達と一緒にいる時間が増えたことにより、いつも以上に子ども達の色々な姿に気づき、見えたように思います。そこで、職員から「かわいいと思ったエピソードや記憶や印象に残っているやり取り」を集めてみました！かわいらしい姿、成長を感じた姿、笑える姿、などなどが集まりました。元気に過ごす子ども達の姿を感じてもらえたら幸いです。



2ヶ月に一回届く理科のポスターを楽しみに待っているR君（年長）。廊下に新しいのが貼ってあるとすぐに気づいて、「新しいの来たね」と報告してくれる。

クリスマスプレゼントでマカロンを頼んだ女子中学生。生まれて初めて食べたマカロンが想像と違ってびっくりしつつ、とってもおいしそうに食べている姿が可愛かった。職員にも感動をおすそ分けしてくれました。

ガソリンを補給する際、補給口を開けようとして間違えてボンネットを開けてしまい子どもと笑った。

夕食時、普段素直に美味しいと口にしない高校生が、職員の作ったおかずを口にした時、ポソッと一言「美味っ！」と呟いたのでそれを聞いて「え、本当？」と聞き返したら、聞こえていて恥ずかしかったのか「やっぱ調子に乗るで取り消すわ(笑)」と返してきました。素直じゃないところに思わず笑ってしまいました。嬉しい言葉が聞けて印象に残っています。

フレーカーが落ち電気が消えて大慌てな子ども達。お風呂に入る直前だったEちゃん（小1）だけは、上半身は着ているけど下に何も履いておらず、お尻丸出しで階段を駆け上がっていて笑いました。

先日、年長さん2人が栄養士さんとミルクもちを作ってくれました。作り方で何を入れたのかときくと「かたいもの」と答えました。餅や板ゼラチンかときくと違うといいます。正解は「かたくり粉」のことでした。子どもらしい勘違いにかわいいと思いました。

小1のEちゃんが宿題の中で反対言葉を書く問題がありそこで「笑う→笑わん」「売る→売らん」と方言混じりで回答していたのが可愛かった。ただ宿題的には正解ではない…（笑）

部活の迎えに行ったとき、帰りの運転中に、来てくれたお礼と言って後部座席から肩をもんでくれた。

小学生が宿題で「スイミー」の音読をしていました。姿勢もよく、漢字も間違えず上手に読めていたのですが、何か違和感がありました。よくよく聞くと「スイミー」を「スーミー」と読んでいました。最初に「音読聞いて！スイミーね！」と正しく言えていたはずなのに、何故か音読中は「スーミー」で何度声をかけてもなかなか直せなかったです。本人も何で？といった様子で、お互いに何で？となりました。

中1男子が、ちょっといいお菓子やジュースを食べているときに、よく「少し食べる？」と優しく聞いてくれること。

郵便局に入る際に誰に言われるわけでもなくアルコール消毒を使っていた。

いつも強めなMちゃん（小6）が夜寝る時は怖いからと言って同室の年下児童の布団に自分の布団をくっつけて寝ていた。その姿がなんだか面白く可愛かった。

以前、男子高校生の髪の毛を切った際、眉毛を整えてあげたことがあった。それ以降髪の毛を切るときには「眉毛もやって」と少し照れくさそうに言うようになった。おしゃれに興味がないタイプだったが、やっぱりモテたいんだなって思った。

「温かい心」 (令和2年10月～令和2年12月)

合掌苑の苑児たちに沢山の方々から、温かいご支援を賜りました。略儀ながら紙面にお名前を掲載して御礼の言葉にかえさせていただきます。ありがとうございました。※前号にて4月～9月での掲載漏れがございました。今号にて合わせて掲載させていただきます。大変失礼いたしました。

池戸 義雄	一柳 芳之	井亦 照美	延寿寺	大石寿司	大島 哲夫
大前 正行	株式会社プラトン	河合 清司	河村 一成	久我 行子	工藤 葉子
国田 祐子	小池 いく代	小酒井 保	小島 達夫	小瀬 美喜子	小鷹 啓徳
澤木 洋一	澤村 いづみ	志津野 多嘉枝	全国シャンメリー協同組合		田代 美子
塚原 大和	土屋 早織	筒井 照明	恒吉 真子	長尾 朝巳	長尾 千之
浪岡 育子	西村 敏行	日本鏡餅組合	日本スポーツ用品協同組合		のだみつ花店
野村 幸子	畑佐 和昭	羽生 紀恵	林 敏之	日置 茂伸	東谷 音々
古川 和夫	古田 浩信	古田 義治	松尾 栄	松森 久子	丸山 茂
水野 富夫	武藤 茂子	めぐみの農業協同組合		山崎 美佐代	山田 唯
(有)和田ファーム	吉野 永子	ワールドメイト	わさび屋(株)	和田 雅也	渡邊 幸司
渡邊 剛	渡辺 義明	渡利 實	(株)PISE	(株)アマゾン	(株)一松精肉店
(株)高垣組	(株)チュチュアンナ				

★勝手ながら敬称を省略させていただきました。万一誤表記、掲載漏れがございましたら、なにとぞご容赦願います。

<後援会「友の会」について>

- ・親と一緒に暮らせない子どもであるからこそ、豊かな生活・豊かな環境が保障されなければなりません。この為にも合掌苑では後援会組織「友の会」を結成しております。
 - ・会費3,000円、皆様のお力添えをお願い致します。
 - ・詳細については、「友の会」事務局、合掌苑までご連絡下さい。
- ☆ 友の会としてご入金いただいたお金は、合掌苑 施設会計に寄付金として計上し、子ども達の生活に役立させていただきます。今後とも皆様には引き続き倍旧のご厚情を賜りたく、お願い申し上げます。皆様のご健康とご発展をお祈り申し上げます。

編集後記

立春を過ぎ、寒い中にも春の気配が感じられる今日この頃。皆さまはいかがお過ごしでしょうか。今年もあとわずかとなり、子どもと一緒にこの1年を振り返ることがあります。コロナ禍のなかで大変なことはありましたが楽しい事もたくさんありました。まだ気は緩められないですが来年も充実した1年になるよう残り少ない日々を大切に過ごしていきたいです。今後とも合掌苑をよろしくお願い致します。

合掌苑だよりのご意見・ご感想も随時お待ちしておりますので合掌苑ホームページのお問合せフォームか、Eメールよりご連絡いただければ幸いです。